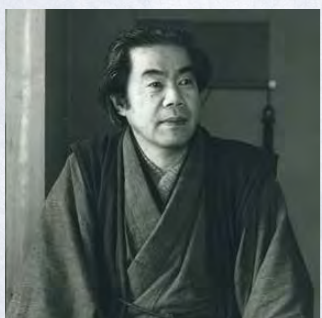


◆ 穂月 明ってどんな人

ミュージアム青山讃頌舎の建物は、水墨画家・穂月 明 (1929～2017) により建てられ、没後、市に寄贈されました。

穂月 明は絵を描くことだけで成功を収めた希少な画家です。作品は、菩薩像や野の仏などの仏画をはじめ、風景や動物、花など多岐にわたります。

高野山で生まれ、愛媛県で幼少期を過ごし、旧京都市立美術大学卒業後、師に付かず、弟子を取らず、派閥に属さず、ほぼ個展だけで作品を発表し続けま



穂月 明 (54 歳頃)



「鉢中の天」

【問い合わせ】

○美術博物館建設準備室 ☎ 41-0400 FAX 22-9694  
○伊賀市ミュージアム青山讃頌舎 ☎ 52-2100

したが、独自の画風は多くの支持者を得ました。しかし賞や役職には無縁であったため、マスコミに採り上げられることはほとんどありませんでした。

52歳の時、旧青山町の風景をこよなく愛して居を構え、87歳で亡くなるまでここで画業に専念しました。

青山讃頌舎では、1月13日(土)から、芭蕉翁記念館との合同企画展「絵が先か、俳句が先か」を開催しますのでぜひご来館ください。詳しくは9ページに掲載しています。



▲種生の獅子神楽



▲敢国神社の獅子舞

**伊賀市の文化財 150**  
**伊賀の獅子舞・獅子神楽**  
お正月の行事として思い浮かべるもの一つに獅子舞・獅子神楽があります。幕を付けた獅子頭を操り、悪霊退散を願って笛や太鼓に合わせて舞い踊ります。  
伊賀地域を代表するのが、敢国神社の獅子舞(県指定無形民俗文化財)です。これは、江戸時代の享保年間(1716～36)には、伊賀の各地を巡奏していたことがわかっており、当時の人びとは獅子舞が巡り来ることを待ち焦がれたといえます。  
敢国神社では、現在でも正月3日(初舞)のほか、4月17日(春祭り)、12月5日(例大祭・おんまつり)の年3回、神社の境内で奉納されます。五段神楽、剣の舞といった儀式舞ののち、鼻高、背つき舞など、芸能的な色合いの強い舞が行われます。  
敢国神社の獅子舞は、江戸時代に伊賀地域の各地に伝えられました。その中でもみられるのが、島ヶ

原の獅子踊や種生の獅子神楽(いずれも市指定無形民俗文化財)です。  
島ヶ原の獅子踊は、日本一遅い秋祭りと呼ばれる12月中旬に行われる鷗宮神社の例大祭で、4頭の獅子により舞が奉納されます。また、種生神社の秋祭りでは、獅子神楽の奉納や獅子を先頭に太鼓、笛、面、神輿、舟檀尻、こたつき、相撲旗の順に御旅所まで3往復する巡行が行われます。  
なお、春日神社の祭礼などで奉納される川東の獅子神楽(市指定無形民俗文化財)は、平安時代に始められたとの伝承があり、かつては伊賀の北東部42カ村を巡奏していたと伝えられています。  
地域に伝えられている獅子舞・獅子神楽からは、人びとの安寧に対する深い祈りを感じることができ

文化財課  
☎ 22・9678 FAX 22・9667

明日に向かって ～差別をなくしていくために～

人権について考えるコラムです。

ヘルプマークで広がる思いやりの輪 —経営企画課—

電車の中や街に出かけたとき、時折ヘルプマークをかばんにつけた人を見かけることがあります。皆さんも見かけたことがあるのではないのでしょうか。

ヘルプマークは、赤地に十字とハートが描かれたカードで、義足や人工関節を使用している人、内部障がいや難病の人、妊娠初期の女性などのように外見からはわからなくても援助や配慮を必要としている人が、周囲の配慮を必要としていることを知らせるためのマークです。平成24年に東京都で配布が始まり、その後全国的に同様の取り組みが広まったことで認知度も上がってきているようです。

援助や配慮が必要だと思い、手伝おうという意思があったとしても、困っていることがわからなければ手を差し伸べることもできないかもしれません。しかし、マークでの意思表示があれば声をかけて手

伝うことや配慮することに戸惑うことが少なくなるかもしれません。

こういった取り組みが広がることで、援助や配慮を必要とする人がこれまでよりも出かけやすくなり、助け合うことでお互いをより理解し合うことができ、多様性が尊重される社会へつながるのではないかと思います。

私は、ヘルプマークをつけた人を見かけたら、この人は何に困っているのだろうと想像して、特に援助が必要に見えなくても何か手伝うことがないかがを配るようになっています。例え何もできなくても、見守ることによっても安心や事故の未然の防止につながるように感じます。このマークの認知度がさらに高まり、その意味を知る人が増え、関心を持つ人が増えることで、思いやりの輪が広がっていくのではないのでしょうか。

■ご意見などは人権政策課 ☎ 22-9683 FAX 22-9641 ✉ jinken-danjo@city.iga.lg.jp へ



【問い合わせ】 商工労働課 ☎ 22-9669 FAX 22-9695

自社農場でこだわりいっぱい生産したトマトをたっぷり使用したカレーです。  
一般的な青採りトマトとは違い、樹で完熟したトマトを使用することで、濃厚なトマトの味わいが楽しめます。甘口はトマトの自然の甘みを生かし、中辛はトマトの甘みに少しピリっとした辛みが感じられ、どちらもさっぱりとしたカレーに仕上がっています。  
伊賀の風土、気候が育んでくれたトマトカレーをぜひご賞味ください。



伊賀産完熟フレッシュトマトカレー



ベジタブラボ株式会社 課長 堀田 勝俊さん

ベジタブラボ株式会社では、伊賀地域を中心に野菜の生産管理や出荷作業などを行っています。ビニールハウスではトマト、ミニトマト、イチゴ、アスパラガス、ブドウの栽培を行い、路地栽培ではキャベツ、ブロッコリー、ナバナの栽培をしています。  
また、令和4年6月から就労継続支

援B型事業所を立ち上げ、農業を通じた生活改善や体力づくり、障がい者への就労支援を行っています。  
伊賀地域に根差した農業を行い、食に携わる責任から生活困窮者への食糧支援や地域の保育園などでの食農教育も行っています。